教　育　研　究　業　績　書

2024年　5月　1日

氏名　松　村　　繁

研　究　分　野	研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド
１．油彩画全般	油彩・テンペラによる混合技法と他画材による表現技法。
２．鉛筆画全般	鉛筆による素材転写を用いた表現技法。
３．アクリル画全般	アクリル絵具やアクリル系下地材を用いた表現技法。

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事　　項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例		
①立川美術学院油絵科非常勤講師	昭和61年4月～ 平成4年3月	夜間部主任・昼間部私大クラスを担当。美術系大学受験のために、主にデッサンと油彩画の基礎と応用を教える。 夜間部生は大半が高校生（初心者）だったため、いかにして理解を深めさせるかに苦心した。個人対応の時間を徹底して増やし、個々の問題点と長所を探りながら極力具体的な指導を心がけた。
②ウィーン派絵画スクール助手	昭和62年4月～ 平成元年4月	ウィーン幻想派（ルドルフ・ハウズナー、エルンスト・フックス、ヴォルフガング・フッター、アリック・ブラウアー）のもとで指導を受けてきた作家達が開いた学校。 テンペラ絵具と油絵具による北ヨーロッパ系列の混合技法を教える。 ここで１年間学んだあとに、同校の助手となり基礎クラスの指導も担当しながら勉強を継続。 テンペラ絵具の作り方や、溶剤の混合の仕方等々使用方法の基本点を教える。
③WIENSTYLE ART SCHOOL MAL （旧ウィーン派絵画スクール） 非常勤講師	平成元年4月～ 平成5年3月	一般クラスを担当。ここでは単なる技法の勉強にとどまらず、各自のイメージをどの様に描く事が自分の表現に合うのかを模索させてきた。 「何を描くか」だけではなく「どう描くか」を技法と直結させて試行させることを目指した。
④朝霞アートスクール非常勤講師	平成6年7月～ 平成9年3月	一般の方を対象にしたカルチャースクール。一般絵画・受験科の担当。 　一般対象の授業では、明暗によるモチーフの捉え方や、絵具の混色と発色の関係、構図とイメージの関わり等の基礎的な部分を踏まえた上で自由に描いてもらう事を心がけた。 　受験科は発想や構成の工夫に重点を置いて指導した。
⑤札幌武蔵野美術学院非常勤講師	平成9年7月～ 平成13年3月	美術系大学受験のために、デッサンと油彩画、平面構成、立体構成等を教える。 　この予備校は科別（油彩・デザイン・彫刻・日本画）のカリキュラム以外にも全科共通の授業があったため、自分の専門分野以外の指導も必要になり、東京の美術予備校で教えていた時の資料などを集め工夫した。
⑥札幌デザイナー学院非常勤講師	平成10年4月～ 平成24年3月	ビジュアル系のファインアートクラスを経由して、現在はイラストクラスを担当。 　ファインアートクラスでは主に油彩画制作を教える。 イラストクラスではデッサン、自由イラスト、技法研究の指導を行なっている。

事　　項	年月日	概　　要
⑦札幌ビューティメイク専門学校非常勤講師	平成10年4月～平成12年2月	美容師を育成する専門学校。ヘアースタイル等のイメージをラフ画で描けるように指導する。殆どの学生が絵を描く経験が少なかったので、割り切って「描き方」を教える方法をとった。「顔のボリュームの出し方」「鼻の立体感の出し方」「目の描き方」「毛髪の質感とボリューム感の出し方」等のプリントを作成し、ベースになる作画パターンを身に付けてもらい、そこに各自のアレンジを加えさせた。
⑧札幌大谷短期大学（現：札幌大谷大学短期大学部）美術科非常勤講師	平成12年4月～平成25年3月	美術科では「デッサンⅠ」「デッサンⅡ」「デッサンⅢ」を担当。 　専攻科では「美術材料学演習」を担当。
ａ．「デッサンⅠ」		（油彩コース必修・1年前期） 1年生前期の授業であることから、基本的な描画材の扱い方と注意点等を説明する。 モチーフの明暗関係を利用して平面の中に3次元的な空間を作り上げていく表現をベースに指導していく。 明暗が見分けやすい様に石膏等の白色モチーフを描かせる事で、見落としがちな明部の中の輝きの差や暗部の中の微妙な反射光の存在に気付いてもらう。 その後、固有色や材質感の違うものを組み合わせたモチーフへと移行させて、明暗表現の応用力を高めていく。 制作経験の少ない学生と多い学生が混在しているので、全体説明の後に、個人指導の時間を増やす事を心がけ、個々の問題点と長所をお互いに確認しながら極力具体的な指導を心がける。 また構図の変化によるイメージの伝わり方の変化に注意を向けさせ、画面隅々まで責任を持てる制作姿勢を身に付けさせる。
ｂ．「デッサンⅡ」		（油彩コース必修・1年後期） デッサンⅠを履修した学生を対象としているので、基礎的な描写力だけではなく、大胆な構成、画面のリズム感、細部と全体等を意識させて、各自のイメージがより強まる表現を目指す。 機械的に淡々と描写することを避けるために、短時間でモチーフの印象を捉えるクロッキー的な作業をさせた後に、主題となるモチーフと脇役のモチーフに極端な描き込みの差をつけさせて「描かない事が描くことにつながる場合もある」ことを体感させる。 モチーフ自体もこちら側で組んだものを描かせるだけではなく、学生一人一人にモチーフを渡し、モチーフの加工から構成までを自主的に行なわせ、自分自身でモチーフの魅力を見つけ出していく意識を強めていく。
ｃ．「デッサンⅢ」		（油彩コース必修・2年前期） デッサンⅠ・Ⅱを履修した学生が対象になっているので、静物モチーフよりも難しい人体デッサンに重点をおいて進めていく。 制作を通して人体の重心のあり方や、各パーツのバランスを把握させ、静物モチーフには無い「生命感」をどう表現していくのかを追究させる。 最初に大きめの紙にクロッキーをさせ、のびのびと線を引く事を意識させてから制作に入る事で、人体の生命感を損なう生硬い線引きや機械的な描写を抑えるよう心がけさせた。 また、肌の調子は階調の幅が狭いため、スポットライトの使用で大きな明暗差を作り出してボリューム感を捉えやすくする工夫をした。 動きの変化によって生じる、筋肉や皮膚の緊張と弛緩の差や、骨関節部の変化等を学生自身に動いてもらって、自分の身体のどこに力がかかるかを実感させながら描かせてみた。

事　　項	年月日	概　　要
d．「美術材料学演習」		（専攻科1年・通年） 絵を描くための画材に対する理解を深め、それらの特色を引き出しながら制作につなげていく。 ここでは鉛筆・アクリル絵具・油絵具・テンペラ絵具を中心に、各画材による表現の可能性を探っていく。 ケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物や人工物の様々な形態を組み合わせて転写する。 そこに生まれた様々な形態から見えてきたイメージに鉛筆で陰影を与えながら「立体感」「質感」「空間」を作り出す。 この作業では、かなり偶然性の強い形体感があらわれるので、普段自発的にイメージ出来ないものを手掛かりにして各自のイメージを広げていく事につなげていける。 鉛筆という画材は比較的取り扱いが楽なので、最初に鉛筆を用いて偶然性を生かした作画のコツを掴んでもらう。 その後アクリル絵具、油絵具、テンペラ絵具を用いて、偶発的にあらわれる有色下地の表情を基に描き起こしていく作業につなげていく。 支持体は板に膠を施した後、白亜地を何層も塗り重ねた後に湿式研磨を体験させる。 支持体をフラットにさせる事で、表面に乗った絵具の微妙な変化が際立ちやすくなる。 テンペラ絵具の不透明感と油絵具の透明感を組み合わせることで、表現の幅が大きく広がる事を実感してもらう。 これらの作業を通して、普段何気なく使っている画材の特徴を意識し、自分の表現に結び付ける形で生かせるようになって欲しい。
⑨武蔵野美術大学造形学部通信教育課程非常勤講師	平成14年3月～現在	地方スクーリング札幌会場で「造形基礎Ⅱ」「絵画表現Ⅰ」「絵画表現Ⅱ」「絵画Ⅲ」「絵画Ⅳ」「絵画Ⅴ」「絵画Ⅵ」「絵画Ⅶ」「卒業制作」を担当。
a．「造形基礎Ⅱ」		（油絵・日本画・版画・デザイン・造形研究等全学科各コース必修科目・1年次） すべての造形分野にまたがる基本を総合的に学習していく。 「モチーフを観る事」と「モチーフを描く事」の距離を縮める努力をすることで、いまの自分がどのようにモチーフを理解しているのかを確認させながら、基本的な造形要素に対する理解を深めていく。 モチーフは炭化させた木製の立方体。これを木炭または鉛筆で画用紙に描かせる。 真黒なモチーフは余程注意深く観察しないと細部の表情が見えにくく、人によってはすぐに描く手掛かりを失ってしまい描き進むことが出来なくなってしまう。 そこから、集中力と観察力のレベルを上げて、より深い探求につなげていかないといけない。 ここでは、あまり「見方」や「描き方」を強制せずに、各自がモチーフから実際に感じた事が、画面にちゃんと再現できているかという事に重点をおいて、そこを評価しながら進めさせていく。

事　　項	年月日	概　　要
b．「絵画表現Ⅰ」		（油絵学科各コース3年次必修科目） 線や面が絵画を構成する大切な要素となっている事に気付かせる。 　モチーフは線的、面的要素を意識しやすい無機的な物を組み合わせたもの。これを木炭または鉛筆で画用紙に描かせる。 　普段、描きなれている再現的な表現方向に進まない様に、最初に線だけで描くクロッキーをさせていく。空間の奥行きを意識させながら感覚的に線を引かせたり、線の性質（鋭い・柔らかい・力強い・細い・太い等々）を組み合わせる事で、空間がどの様に変化していくかを試行させる。また面だけで描くクロッキーをさせて、様々な面の表情（モチーフの材質感から感じる違い等）を手掛かりにしながら面表現のバリエーションを増やしていく。面の方向性が空間に与える影響を感じさせつつ、様々な構成を試行させる。 　これらのクロッキーを体験させた後に本制作に入らせる。 本制作では画面全体のバランスを意識させた上で、線と面を活用した自由な空間構築をめざして作業を進めさせる。
c．「絵画表現Ⅱ」		（油絵学科各コース3年次必修科目） モチーフの中にある明暗と色彩の働きを意識して、モチーフ個々の形態や色彩が、周りにある壁や床の色彩とどう関わり合っているかを考えさせる。同時にモチーフを取り巻く空間等にも注意を向けて制作させる。 　モチーフは4色の大きな柄の入ったワンピースを着た人物。人物の背景には天井からモデルの足元まで広範囲に広がる5種類の違う色の布を垂らす。 　これを油絵具かアクリル絵具を用いてキャンバスまたは水張りパネルに描かせる。 　ここで大切なのは、画面全体に用いられる全ての色彩を常に相対的に比較して見ていく事である。 　色彩相互のもたらす明度や彩度の関係が、画面の中でひとつの空間としてバランス良く調和できているかを常に意識できる様に心がけさせる。 　色彩には明暗も含まれているが、明るいから白を混ぜるとか暗いから黒を混ぜるといった観念的な考えで混色をさせない様に、自分の目で見て感じた色を微妙な混色でしっかりと作らせるアドバイスをしていく。
d．「絵画Ⅲ」		（油絵学科絵画コース3年次必修科目） 「自然と生命」をテーマにして制作する。 作者自らも自然の中に存在している存在である事を意識しながら、見る・感じる・考える・行なうという一連の流れの中で表現を目指していく。 モチーフは裸婦モデル1名。その周りに身長よりも高い観葉植物を2鉢、腰くらいの高さの物を2鉢用意し、モデルを囲むように配置する。 前半はデッサン。 後半は同じモチーフを油絵具かアクリル絵具を用いてキャンバスまたは水張りパネルに描かせる。 人体のフォルムと植物のフォルムの様々な差異に目をむけ向けさせながら描き進める事で、同じ生命体でありながら、それぞれ異なる形体感や色彩を持ち合せている事を強く意識させながら、単なる表面描写に陥らない様に人物と植物によって生み出される空間を描かせていく。 ポーズの合間（午前1回午後1回）にモデルにムービングをやってもらい、人体の躍動感や生命感を強く意識させるきっかけを作っていく。

事　　項	年月日	概　　要
e．「絵画Ⅳ」		（油絵学科絵画コース3年次必修科目） 「人と身体性」をテーマにして制作する。 ここでは表現の身体性という事に注目し制作していく。 モデルも自分も生命体である事を意識しながら、モデルの動きと自分を同調させる様な気持ちで身体を動かしながら形を探らせる。 モチーフは裸婦モデル2名使用。固定ポーズだけではなく、動きの印象の強いポーズや音楽に合わせたムービングをクロッキーさせる。 前半では木炭または鉛筆で画用紙に描かせ、後半は同じモチーフを油絵具かアクリル絵具を用いてキャンバスまたは水張りパネルに描かせる。 ここでは人物が2名になった時の「空間の質」の変化や「感情の変化」にも意識を向けさせる。 2名の配置を大胆に考慮させながら、イメージに則した構図を積極的に考えさせる。
f．「絵画Ⅴ」		（油絵学科絵画コース3年次必修科目） 「素材と表現」をテーマに制作する。 　ここでは絵画制作に用いられる材料や技法の研究に意識を向けさせる。 モチーフは様々な質感のモチーフを組み合わせる。 これを板・キャンバス・ボード等の支持体を用いて、油絵具、アクリル絵具、コラージュ用の様々な素材を併用して描かせる。 当たり前のように絵具で描いてきた感覚の中に、絵具も物質の一つであるという認識を加えてもらう。 必要に応じて支持体にもモデリングペースト・ジェッソ・石膏地などを施したり、和紙や布を貼ったりして材質の抵抗感を与えておく。 絵具で描かれるイリュージョンとしての存在は、ともするとコラージュの物質感に負けてしまうので、絵具もコラージュ素材と同等の物性をもつ存在として扱う意識を持たせないといけない。 この意識が弱い学生には、デモンストレーション等を見せて、素材と絵具の物質のせめぎ合いを実演の中で感じさせ、アドバイスする。
g．「絵画Ⅵ」		（油絵学科絵画コース4年次必修科目） 「断片の風景」をテーマに制作する。 日常生活の中で目をとめて思わず注視してしまう状況と出会う瞬間がある。 　その理由が何であるのか、何が各自の感動につながる要素になっているかを意識しながら制作する。 モチーフは大きな金属板の上にバイクを配置したもの。（バイクの形が映り込むステンレス素材を使用） 窓がモチーフの背景に来るようにして、金属板に窓の景色（光）が映り込む様にセットする。 　前半は全紙サイズの木炭紙か画用紙に、木炭または鉛筆でデッサンさせる。 後半は、油絵具かアクリル絵具を用いてキャンバスまたは水張りパネルに描かせる。 　モチーフ全体を漠然と描かせるのではなく、興味を持った断片をエスキースの中で絞り込ませて、自分の絵作りに必要な要素を明確にさせた上で本制作に向かわせる。

事　　項	年月日	概　　要
ｈ．「絵画Ⅶ」		（油絵学科絵画コース4年次必修科目） 「自由制作」をテーマに制作する。 この課題は卒業制作へ向けての足がかりとなる、非常に重要な課題である。 「何を」（主題）「どのように」（方法）描くのかを明確にする事を念頭に制作させる。 50号程度の支持体に、好きな画材を使って制作させる。 また様々なアイデアやイメージのきっかけを掴ませるために「制作ノート」を作らせる。 各自が今現在興味を持っているもの（絵画に限らず、音楽・写真・映像・小説・詩・その他）の資料を1冊のスケッチブックにスクラップし、メモやドローイング等を描き足しながら、第三者に伝わる様に解説・図解させる。 この作業を通して、自分自身が興味を持っているものに対する理由や意味の再確認をし、自分がいま描くべきものが何なのか、という主題を探っていく。 主題が見えてきたら、そのテーマをどのような技法を用いて制作する事がベストなのか、これも併せてこの課題の中で探らせていく。 制作ノートが、ただの資料の羅列にならない様に注意する。 このノートを見ながら、学生とディスカッションし、卒制のひな型になるような制作を行わせる。
ｉ．「卒業制作」		（油絵学科絵画コース4年次必修科目） 卒業制作（自主制作）を2点制作する。 卒業制作は基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタートでもある。 各々の資質にあった表現に向けて、自由に精一杯悔いのない制作をさせる。 80～100号サイズで支持体は自由。 壁面取り付け可能なもので、厚さは15センチ以内とする。 描画材は自由。作品2点のサイズは異なってもよい。 今まで学んできた中で、絵画を総合的に捉える力が養われ、同時に自分の目指す表現の方向性もある程度は見えてきている。 この卒業制作では、それをより確かなものとし、卒業後の創作活動につなげるためのものとして位置付けて欲しい。 卒業制作は画面のサイズが大きくなるだけではなく、描くべきテーマをしっかり持ち、それを構成していく力も必要になる。 エスキースやデッサンを重ねながらテーマを絞り込み、それをどの様な素材を用いて、画面上でどう組み立てていくのかを考えさせながら手順を踏んで制作させないといけない。

事　　項	年月日	概　　要
⑩札幌大谷大学芸術学部美術学科 専任	平成24年4月～ 現在	「デッサンⅠ」「絵画基礎Ⅳ」「油彩研究Ⅰ」「卒業制作」を担当。(平成28年まで) 「絵画基礎Ⅳ」「油彩研究Ⅱ」「油彩研究Ⅲ」「油彩研究Ⅳ」「卒業制作」（平成29年～） 「絵画基礎D」「油彩研究B」「油彩研究Ⅲ」「油彩研究Ⅳ」「卒業制作」「絵画表現技法」（平成30年～） 「絵画基礎D」「油彩研究B」「油彩研究C」「油彩研究D」「卒業制作」「絵画表現技法」（2019年～） 「デッサンA」（2020年～2021年） 「デッサンB」（2021年～2022年） 「共通基礎C」静物デッサン（2023年～） 「総合表現演習A 画材と表現」（2024年～）
１．「デッサンⅠ」		（1年前期必修）基本的な描画材の扱い方と注意点等を説明した上で、明暗関係を利用して平面の中に3次元的な空間を作り上げていく表現を指導していく。 明暗が見分けやすい様に石膏等の白色モチーフを描かせる事で、見落としがちな明部の中の輝きの差や暗部の中の微妙な反射光の存在に気付いてもらう。 その後、固有色や材質感の違うものを組み合わせたモチーフへと移行させて、明暗表現の応用力を高めていく。また構図の変化によってイメージの伝わり方に変化が起きる事に気付かせ、画面隅々まで責任を持てる制作姿勢を身に付けさせる。
２．「絵画基礎Ⅳ」		（2年・後期　絵画コース必修）ここでは今まで学んできた三次元的空間表現の再現にとどまらない、自由な画面構成を試作させる。 絵画の構成要素である「線」「面」の働きに注目させながら、画面全体へ意識を向けさせて、自由な空間を再構成し探らせていく。 また、メインモチーフの形だけでなく、周りにある様々な要素も積極的に構成要素として取り入れて画面構成の幅を広げていく。
３．「油彩研究Ⅰ」		（3年・前期　絵画コース油彩分野必修）絵画コース油彩分野の専門科目であるため、各自の特性に応じてテーマや表現内容を探求し、絵画表現の方向性を探ることを目標とする。 現在の自分が興味を持っている様々な物事を資料としてまとめ、それらをどの様に絵画的な展開と繋げていくかを試作していく。 また、様々な技法や表現にも積極的にアプローチして、自分の絵画表現に必要な方法を探してみる。
４．「卒業制作」		（4年・通年）4年間の学習および制作の成果の集大成として、これまでに修得させた知識と技術・技法を踏まえて作品を制作させていく。
５．「油彩研究B」		（3年・後期　絵画コース油彩分野必修）絵画コース油彩分野の専門科目であるため、各自の特性に応じてテーマや表現内容を探求し、絵画表現の方向性を探ることを目標とする。 現在の自分が興味を持っている様々な物事を資料としてまとめ、それらを絵画的な展開に繋げていく試作を、偶然性を生かした発想と関連付けておこなう。 また、様々な技法や表現にも積極的にアプローチして、自分の絵画表現に必要な方法を模索する。
６．「油彩研究Ⅲ」		（4年・前期　絵画コース油彩分野必修） 各自のテーマ性を明確にするために必要なエスキース作りを学ぶ。それらを卒業制作に反映させて行けるように、より綿密な画面構成（構図）や明暗計画、色彩計画をエスキースをとおして造り上げる。

事　　項	年月日	概　　要
７.「油彩研究Ⅳ」		（4年・後期　絵画コース油彩分野必修） 各自が卒業制作を完成させていくために必要な、それぞれの画材表現の研究や、表現方法の深化を目指して積極的に研鑽していく。各自の作品テーマに合った表現を探し、完成度を高めていく。
８.「絵画表現技法」		（3年・前期　造形領域選択） 鉛筆やアクリル絵具の特性を理解しながら表現の幅をひろげていく。 また画材特有の物理現象を利用して偶然性を伴った表情を作り、そこから発想して新たなイメージを生み出し制作に繋げていく。
９.「造形基礎D」		（2年・後期　絵画コース油彩分野必修） 造形基礎Cで修得した対象の存在感や空間表現を、人体の内部構造や動性、重心などを観察しながらさらに深めていく。 今後の油彩研究授業へとつながる応用力を養えるように、人体をとりまく空間状況と絵画空間の関係や、画面構成の表現を模索する。
10.「油彩研究C」		（4年・前期　絵画コース油彩分野必修） 各自のテーマ性を明確にするために必要なエスキース作りを学ぶ。それらを卒業制作に反映させて行けるように、より綿密な画面構成（構図）や明暗計画、色彩計画をエスキースをとおして造り上げる。
11.「油彩研究D」		（4年・後期　絵画コース油彩分野必修） 各自が卒業制作を完成させていくために必要な、それぞれの画材表現の研究や、表現方法の深化を目指して積極的に研鑽していく。各自の作品テーマに合った表現を探し、完成度を高めていく。
12.「デッサンA」		（1年・後期　選択） 造形基礎Aで学んだデッサンの基礎を次の段階に更に進める。ここでは静物、石膏像に加えて人物表現も学ぶ。明暗を利用した立体、質感、空間を表現する意識をさらに深めていく。
13.「デッサンB」		（2年・前期　選択） デッサンAで学んだデッサンの基礎を次の段階に進めます。この授業ではモデル使用をメインとして人体の基本構造を学びます。クロッキーを通して人体の動きや重心を学び、デッサンでは人体構造をもとにした人体を立体的に表現する事を学ぶ。
14.「共通基礎C（静物デッサン）」		（1年・集中　必修） 静物デッサンの基本を学ぶ。直方体・球体・円柱に当てはまるモチーフを組合せ、視点の高低差による形の見え方の変化や陰影効果による立体感の表現、モチーフ台との関係性などに注意して空間の中に３次元的な存在感を表現する方法を学ぶ。
15.総合表現演習A　（画材と表現）		（2年・前期　選択） 油彩絵具の特性を学ぶ。透明色と不透明色の効果的な使い方を体験し、アクリル絵具やテンペラ絵具も併用する。 それらを通して今後の自主制作に応用できる力を身に付ける。
２　作成した教科書，教材		
１）　絵画表現技法遠隔授業用動画資料作成	2020年4月	鉛筆転写の下地作り塗り見本動画作成。 各種素材の転写方法見本動画作成。
２）　宅配オープンキャンバス用動画資料作成	2020年4月	水滴の描き方（画材用具使用方法・基礎実技編）動画作成。
３）　絵画表現技法遠隔授業用動画資料作成	2020年6月	鉛筆転写終了後に画面空間を意識して様々なエレメントを追加描写して、異なる空間世界を作るための動画と資料作成。

事　　項	年月日	概　　要
４）人体頭部の理解を深めるための頭部模型（顔面レリーフ）を制作	2020年8月	ライフマスクをシリコンで型取りし、ポイントになる顔の骨格や表情筋の微細なボリュームを触覚的に理解できる様に作成。
５）造形基礎D遠隔授業用動画資料作成	2020年9月	自画像デッサンと自画像油彩を自宅制作する学生に対して ライフマスクに様々な方向から光を当てて、顔面の主要な骨格や筋肉の流れがわかる画像資料と動画資料を作成。
６）デッサンA遠隔授業用資料作成	2020年11月	手など人体パーツをデッサンするための基本構造を学ぶための資料と、手のポーズによって様々な空間の違いが表れることとその表現方法についての資料作成。
７）眼の周辺を含むデッサンの遠隔授業用資料作成	2021年9月	眼球、眼窩、眉、睫毛、鼻側面を含めて眼球周辺の立体感の表現方法と各部の質感差の表現を、デッサン制作過程動画と共に解説する動画資料作成。
８）円柱形デッサンのリモート授業用動画作成	2021年6月	リモート授業用の基礎デッサンとしてトイレットペーパー（円柱形）を描く時の注意点を、簡単なアニメーションを加えた動画資料を作成。
９）人体頭部の理解を深めるための頭部模型（顔面レリーフ）を素材を変えて追加制作	2022年11月	2020年10月に作った頭部模型の型を利用してジェスモナイトという素材で追加作成。
10）テンペラ絵具と油絵具による混合技法の実践的アドバイス動画作成	2022年11月	テンペラ作業過程の動画制作。主に画面上の油彩グレーズとテンペラ絵具の混合のコツが分かりやすいように撮影アングルや光の当て方、クローズアップなどを工夫して撮影した動画資料作成。
11）眼球の表情と構造の理解を深めるための眼球模型の製作	2023年9月	ポリエチレン樹脂、透明レジン、シリコンでほぼ実物大の眼球模型を製作。実際に入射光によってどの部分が光に反射するかを確認できる。また頭部を描く際に眼球の立体感を実感させるために役立つ教材。
12）クリエイターズライブラリーと称する作家としての歩みを伝える動画を作成	2024年4月	自作の紹介と、大学を卒業してどんな仕事を続けながら創作活動を続けてきたかを解説。 浪人時代・大学生時代・大学院生時代・卒業後の進路・公募展への出品・個展、グループ展活動・職種歴など、学生にとって自分の進路を考える際の手掛かりになるような内容を心がけて作成。
３　教育上の能力に関する大学等の評価 １）札幌大谷大学芸術学部美術学科の設置認可申請に伴う教員評価 ２）自己点検・評価結果 ３）学生による授業評価，教員による相互評価等の結果	平成23年 4月	以上の研究上の実績並びに教育歴を本学部の専任教員採用規程に照らし，担当科目を教授する資質は十分に有すると評価する。
４　実務の経験を有する者についての特記事項 １）東区4高等学校合同美術展関連講習会	平成19年11月	開成、丘珠、東陵、東豊　各高等学校の美術部による依頼。 「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、 最初にいくつかのエレメントの描き方を教えるところから始める。 描き方と、それらが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。

事　　項	年月日	概　　要
２）平成２２年度　北海道高等学校文化連盟上川支部美術展・研究大会　実技研修会	平成22年6月	北海道高等学校文化連盟による依頼。 高文連美術展・研究大会に向けた作品制作への取り組のための技術向上、技法習得のための実技研修指導等。 「モチーフの形態転写を利用した細密描写で絵画空間と構成を学んでみよう」というテーマで実技指導を行なう。 最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物や人工物の様々な形態を組み合わせて転写する。 そこに生まれた様々な形態（偶然性も含む）を見つめ、そこから見えてきたイメージをより明確に作り上げていく。 転写された形態に鉛筆で陰影を与えながら「立体感」「質感」「空間」を作り出していく。 この作業を通して、画面を構成する意識も持たせていく。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、 最初にいくつかのエレメントの描き方を教えるところから始める。 最初に、描き方とそれが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。 事前に同じ技法で制作したサンプルを複数枚コピーして、各受講者に配ることで、作業内容がより明確になった。
３）江別市公立学校美術部第一回三校合同研修会	平成24年11月	大麻、野幌、江別、各高等学校の美術部による依頼。 「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 研修内容を明確にしてもらうため、事前に別日程で各校の美術部顧問と美術部の代表と打ち合わせをしてからに研修会に臨んだ。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターを用いてより具体的な制作作業を見せながら始めた。 描き方と、それらが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。
４）平成25年度　北海道高等学校文化連盟上川支部美術展・研究大会実施研修会	平成25年5月	上川支部21校の高校美術部員対象の研修会からの依頼。 顔の主要パーツである「目」をメインに細密描写をさせるところから始める。プリント資料を使って眼球のボリューム表現を練習させた後、グレーの色画用紙に鉛筆の暗色と白コンテの明色を用いて、眼球の質感や透明感・反射光の表現を中心に細部まで描写を進める。 涙で濡れた質感や量感を追求し描かせる事を通して、普段認識している顔のパーツの構造や成り立ちの複雑さに気付いてもらう事を目指した。 その後、頭骨の構造を意識させながら、鼻や口等のパーツを描き込む作業へとつなげていった。 平面的にとらえがちな顔のパーツ構造を立体的に意識させる事で、普段と違うアプローチで顔の理解を深められた。 グレー紙に白コンテを使用した事で、細かな光の表現がやりやすくなり、質感表現もかなり深められた。 時間：約２時間 材料：プリント資料・グレーの色画用紙１枚（A4）・鉛筆（H・2B）・ねり消しゴム・白コンテなど

事　　項	年月日	概　　要
５）平成25年度　北海道高等学校文化連盟十勝支部美術展・研究大会実施研修会	平成25年6月	「様々な素材のテクスチャーの転写を基に、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて様々なモチーフの形態を転写する。そこに生まれた多様な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を、事前に動画撮影しておきプロジェクターを用いて具体的な制作作業を見せながら始めた。 陰影のつけ方の違いによって、空間の凹凸が入れ替わったり、図と地の関係が様々に変化する様子を見せて、それらの効果を応用して各自の自由なイメージで作画してもらった。 また、画面のどこを主とし、それを支える役割をどう扱うか等、画面作りの基本も考えさせてみた。
６）平成25年度　美唄サテライト・キャンパス　市民教養講座	平成25年9月	美唄市との地域連携事業の一環として、美唄サテライト・キャンパスの中の市民教養講座で人物表現についての講義と実技指導を行う。 約40名の美唄市近郊の人々を対象に講座を開いた。 年齢は20代～80代まで。 1回の講座時間は3時間～4時間で計4回行った。 全く絵画制作の経験がない方が多数居ると聞いていたので、初回は「西洋と東洋の絵画における人物表現の違いを考察する」というテーマで、プロジェクターで様々な作品を見てもらいながら主に立体表現の違いに意識を向けさせた。 その後、持参した石膏像と頭骨モデルにライトを当て、陰影による立体効果の解説をして、次回から各自が制作するための人物写真のチェックを行った。 実技未経験者が多い事から、誰もが作業に入りやすいように人物写真をモチーフにし、それを直接トレースさせるところから始めた。 その後も肌と髪、瞳などの明暗差に注意させたり、平面的にならない様に面の変わり目を意識させ、硬くならない様にボリューム感を表現させる様に心掛けた。 4回目の最終日には、人物の背景に自然物の素材を転写して人物作品にアクセントを与えて終了。 実技未体験者40名に教える事は初めての体験だったので大変だったが、全員やる気にあふれていた事に助けられて完成度の高い作品が多数仕上がって良かった。
７）平成25年度　北海道高等学校美術・工芸教育研究大会	平成25年11月	北海道の高校美術教員が授業内容の研さんの為に開いている研究会の依頼で開講。 「モチーフの形態転写を利用した細密描写で絵画空間と構成を学んでみよう」というテーマで実技指導を行なう。 最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物や人工物の様々な形態を組み合わせて転写する。 そこに生まれた様々な形態（偶然性も含む）を見つめ、そこから見えてきたイメージをより明確に作り上げていく。 転写された形態に鉛筆で陰影を与えながら「立体感」「質感」「空間」を作り出していく。 この作業を通して、画面を構成する意識も持たせていく。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、 最初にいくつかのエレメントの描き方を教えるところから始める。 最初に、描き方とそれが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。 事前に同じ技法で制作したサンプルを複数枚コピーして、各受講者に配ることで、作業内容がより明確になった。

事　　項	年月日	概　　要
８）平成26年度　北海道高等学校文化連盟十勝支部美術展・研究大会実施研修会	平成26年6月	「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 研修内容を明確にしてもらうため、事前に別日程で各校の美術部顧問と美術部の代表と打ち合わせをしてからに研修会に臨んだ。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターを用いてより具体的な制作作業を見せながら始めた。 描き方と、それらが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。
９）平成26年度公開講座 主催：札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部　後援：札幌市教育委員会・道民カレッジ連携講座	平成26年10月	人物モデルを使い、顔を中心としたデッサンを行なう。 図版を使った説明を通して、頭蓋骨の構造・筋肉や筋の在り方を学んだ上で、実際のモデルの顔の成り立ちを分析しながらデッサンに必要な基本造形を学ぶ内容。 一般受講者20名を対象に開講。
10）平成27年度　北海道高等学校文化連盟十勝支部美術展・研究大会実施研修会	平成27年6月	「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。 また今までは四角形の画面で制作をしていたが、画面の構成に変化をつけるため、実験的に六角形の画面で制作を行ってみた。 描き方と、それらが画面に及ぼす効果を実感してもらう事で、この作業にとって何が必要な事なのかを明確に意識させる事を心がけた。
11）平成28年度　江別市公立学校美術部二校合同研修会	平成28年4月	高文連地区大会出品作品に向けて、江別高校と大麻高校の美術部員学生が制作途中の作品やエスキースを持って来て、その途中経過を見ながら、講評・アドバイスを行った。作品の種別は主に絵画であったが、イラストや立体が少数含まれたので、その方面の専門教員がアドバイスを行なった。 作品の方向性が多岐に渡っていたが、人物画を描いている学生は肌の色表現や骨格を基にした立体感の出し方、毛髪の表現方法についての質問が非常に多かった。 今後、この様な形態の研修会を行なう場合は、様々な傾向の人物画の実物を事前に用意しておいて、それを見せながら説明をしていかないと言葉の説明だけでは本当の理解には繋がらないと感じた。

事　　項	年月日	概　　要
12）平成28年度　高文連空知支部美術部春季大会	平成28年5月	空知支部の高校美術部部員に対して「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物・人工物の素材転写をきっかけに細密描写」の実技講座を行なった。 最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が重要である。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
13）平成28年度　高文連十勝支部美術部春季大会	平成28年6月	平成28年度　高文連十勝支部　美術専門部夏期実技研修会にて「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物・人工物の素材転写をきっかけに細密描写」の実技講座を行なった。 最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が重要である。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
14）平成28年度　高文連苫小牧支部　美術展・研究大会	平成28年9月	平成28年度　高文連苫小牧支部　美術展・研究大会にて「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「リアル系イラスト眼球を描く」の実技講座を行なう。前提講義の中で様々な動物の生態と瞳の構造の関わりを開設した後に、鉛筆とケント紙を使って実技指導に入った。 マスキングシートも使用しながら、転写による細密描写の要素を取り入れて生命感のあるみずみずしさを表現できる様に指導した。
15）平成29年度北海道高等学校文化連盟　美術専門部　石狩支部南ブロック大会実技ワークショップ	平成29年5月	平成30年度北海道高等学校文化連盟　美術専門部　石狩支部南ブロック大会実技ワークショップにて「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物・人工物の素材転写をきっかけに細密描写」の実技講座を行なった。 最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が重要である。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた
16）平成29年度高文連空知支部美術部春季大会実技研修指導	平成29年5月	平成29年度高文連空知支部美術部春季大会実技研修会にて、「がんばれ美術の時間」プログラムの中からリアル系イラスト「眼球基本編」で、15名の学生を対象に人間の眼球の仕組みと絵画的表現の際に眼球にどの様に光の効果が影響するかを中心に説明し描写させ指導した。午後は「構成デッサン」で16名の学生に画面構成の考え方、立体感、質感、明暗バランスなどデッサンの基本になる部分を指導した。

事　　項	年月日	概　　要
17）平成29年度　北見柏陽高校高文連研究大会	平成29年8月	平成29年度高文連研究大会の一環として北見柏陽高校の美術部員18名に対して「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
18）平成29年度　高文連美術道南支部美術部員有志合同実技研修会・2017道南高校生美術ワークショップ	平成29年11月	平成29年度　高文連美術道南支部美術部員有志合同実技研修会・2017道南高校生美術ワークショップで「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で、20名の学生を指導してきた。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版したものも使用して、絵具の多彩な表情を体験させる内容で指導した。
19）平成30年度　北海道高等学校文化連盟　美術専門部　石狩支部南ブロック大会開催要項	平成30年5月	10名に対して「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
20）平成30年度北海道高文連上川支部美術展・研究大会実技研修会	平成30年5月	18名に対して「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
21）平成30年度高文連空知支部美術部春季大会実技研修会	平成30年5月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で、18名の学生を指導してきた。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版したものも使用して、絵具の多彩な表情を体験させる内容で指導した。

事　　項	年月日	概　　要
22）平成30年度　美唄サテライトキャンパス	平成30年8月	美唄市との地域連携事業の一環として、美唄サテライト・キャンパスの中の市民教養講座で「チョークを使った黒板アート作成講座」実技指導を行う。 約12名の美唄市近郊の人々を対象に講座を開いた。 1回の講座時間は3時間～4時間で計3回行った。 美唄市には日本理化学工業というチョークを製造する企業があり、そこの製品を使って地元のまちづくり・ひとづくりの一環となる様な企画として行なった。
23）平成31年度北海道高文連石狩支部美術専門部「東ブロック大会」実技等研修会　実技指導	2019年5月	10名に対して「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「自然物の形態転写と、細密描写による絵画空間の構成」というテーマで実技指導を行なう。最初にケント紙・鉛筆・マスキングシートを用いて自然物の形態を転写する。そこに生まれた様々な形態を見つめ、そこから受けたイメージに向かって陰影を用いながら「立体感」「質感」「空間」を作っていく。 これらの作業を通して、画面を作り上げていく意識を持ってもらう事が今回の狙いである。 限られた時間の中で、各自に手応えを感じて貰える様に、最初にいくつかのエレメントの描き方を教える際に、プロジェクターで制作過程の動画を用いて、より具体的な制作作業を見せながら始めた。
24）平成31年度北海道高等学校文化連盟上川支部美術展・研究大会実技研修会　実技指導	2019年5月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で、15名の学生を指導した。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版したものも使用して、絵具の多彩な表情を体験させた。後半は多様な表情を生かして各自が、それぞれのイメージを基にして自由な作画を行ないマチエールの偶然性がどの様に絵画の表情に生かされるかを体験して貰った。
25）平成31年度北海道高等学校文化連盟道南支部美術専門部加盟校（市立函館、遺愛、七飯高校）実技指導	2019年10月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で、3名の学生を指導した。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版したものも使用して、絵具の多彩な表情を体験させた。後半は多様な表情を生かして、各自に透明感のある材質感のある立体物（水滴・ガラス）をイメージさせて、その範疇で自由な作画を行ないマチエールの偶然性がどの様に絵画の表情に生かされるかを体験して貰った。
26）令和２年度第６７回北海道高等学校文化連盟釧根支部美術展・研究大会研修会（釧路明輝高校・釧路北陽高校）	2020年11月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「頭部を描く～眼球編」を行い13名の学生を指導した。 ここでは水滴表現を基本に学び、立体感と材質感を表現するポイントを理解してもらった上で、それらを応用して眼球の描き方へとつなげていった。 虹彩のデザインなどは各自自由に発想してもらい、鉛筆や擦筆、粘着シートの使用方法も学んでもらった。
27）令和３年度高文連空知支部美術部春季大会（深川西高校・岩見沢東高校・岩見沢西高校・岩見沢緑陵高校・栗山高校・滝川西高校・滝川高校・長沼高校・岩見沢農業高校・クラーク高校）	2021年6月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「アクリル絵具の可能性を探ろう」という内容で、イラストボードにモデリングペーストにて様々な型押し、素材転写した上にアクリル絵具の多色を重ね塗りして、乾燥後に湿式研磨して偶然のマチエール表情を作る。その上に透明な半球体の立体物をイメージして描写させた。マチエールの偶然性がどの様に絵画の表情に生かされるかを体験し、それを基にして作品化させる練習をしてもらった。

事　　項	年月日	概　　要
28）2022年度高文連十勝支部美術専門部夏季実技研修会	2022年6月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「手のデッサン」という内容で軟式テニスボールを持った手をデッサンした。基本的な手の構造（骨格、比率、皮膚や爪やボールの質感の違い）を意識させながら制作を進めた。
29）2023年度　高文連石狩支部美術専門部 北ブロック大会	2023年5月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「頭部を描く～眼球編」を行い10名の学生を指導した。 ここでは水滴表現を基本に学び、立体感と材質感を表現するポイントを理解してもらった上で、それらを応用して眼球の描き方へとつなげていった。 虹彩のデザインなどは各自自由に発想してもらい、鉛筆や擦筆、粘着シートの使用方法も学んでもらった。
30）2023年度高文連空知支部　美術部春季大会	2023年5月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で、20名の学生を指導した。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版した版も使用して、絵具の多彩な表情を体験させた。画面をマスキングテープで様々に分割させ、構成された枠内と全体のバランスを意識させた。
31）静内高校 美術部員実技指導	2023年7月	静内高校美術部員15名の高文連出品作品の実技指導を2時間かけておこなう。後日、全員分の作品に必要と思われる資料を送り、各自の作品を添削した。
32）北海道高等学校文化連盟　苫小牧支部美術展・研究大会	2023年8月	「がんばれ美術の時間」プログラムの中から「絵具で様々な表現を楽しもう」で10名の学生を指導した。 アクリル絵具と下地材を使って様々な表現技法（薄塗りによる表現（にじみ、ぼかし）・マチエール表現（多種凹凸）・削りによる表現（多層色）・水溶性を活かした表現）等を中心に、シルクスクリーン製版した版も使用して、絵具の多彩な表情を体験させた。画面をマスキングテープで様々に分割させ、構成バランスを意識させた。
5　その他		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事　　項	年月日	概　　要
1　資格，免許	昭和61年3月	高等学校教諭一級普通免許状（美術）（昭61高１普第632）
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 1．シエスタ	単	昭和61年3月	第62回白日会展 東京都美術館	油彩，100号F。 支持体はパネルにキャンバス張り。
2．イルエラの月	単	昭和62年3月	第63回白日会展 東京都美術館	テンペラ，油彩による混合技法，130号F。 支持体は木製パネルに白亜地。
3．は・る	単	昭和63年3月	第64回白日会展 東京都美術館	テンペラ，油彩による混合技法，80号S。白日賞受賞。 支持体は木製パネルに白亜地。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） ４．マジシャン	単	昭和63年9月	第２回Neo Medieval展 ギャラリー玉屋（東京）	混合テンペラ技法，50号F。他数点。 ウィーン応用美術大学で混合技法を学んできた作家に学ぶ者のグループ展。支持体は木製パネルに白亜地。
５．in forest	単	平成元年3月	第65回白日会展 東京都美術館	テンペラ，油彩による混合技法，130号F。 支持体は木製パネルに白亜地。
６．HANAHIKO	単	平成元年9月	第３回Neo Medieval展 ギャラリー玉屋（東京）	混合テンペラ技法，10号M。他数点。 第２回に引き続き，混合技法作品によるグループ展。支持体は木製パネルに白亜地。
７．Lamina	単	平成2年3月	第66回白日会展 東京都美術館	テンペラ，油彩による混合技法，130号F。 安田火災美術財団奨励賞受賞。 支持体は木製パネルに白亜地。
８．Lamina Ⅰ	単	平成2年3月	第１回明日の白日展 東京セントラル美術館 梅田近代美術館	テンペラ，油彩による混合技法，50号F。 白日会主催のグループ展。 支持体は木製パネルに白亜地。
９．２匹の竜	単	平成2年10月	JAPANISCHE PHANTASTEN ローランツ画廊 （ドイツ　ボン）	テンペラ，油彩による混合技法，10号P。他10号２点。 ウィーン派スクールのメンバーによるグループ展。支持体は木製パネルに白亜地。
10．朝の痛み	単	平成2年8月	白日青の会 もりもと画廊（東京）	混合テンペラ技法，10号M。他10号３点。 白日会会員グループ展。 支持体は木製パネルに白亜地。
11．歴史	単	平成3年4月	安田火災美術財団 奨励賞展 東郷青児美術館 （東京）	テンペラ，油彩による混合技法，50号P。 他50号１点。支持体は木製パネルに白亜地。
12．レース	単	平成3年6月	白日青の会 もりもと画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号M。 他10号２点。 白日会会員グループ展。 支持体は木製パネルに白亜地。
13．まなざし	単	平成4年2月	マールシュール シュテルン展 ギャラリーモテキ （東京）	テンペラ，油彩による混合技法，12号F。支持体は木製パネルに白亜地。
14．Lamina（森の声）	単	平成3年10月	スカラベ展 あかね画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，130号F。 他130号Fを中心に60号，50号，小品，計11点。 支持体は木製パネルに白亜地。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 15. Lamina（しずく）	単	平成4年2月	眼展 青木画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，30号変形。他20号の作品２点。 支持体は木製パネルに白亜地。
16. 月の声	単	平成4年3月	第68回白日会展 東京都美術館	テンペラ，油彩による混合技法，130号変形，屏風３枚組。 支持体は木製パネルに白亜地。
17. Lamina（瞳）	単	平成4年4月	多摩秀作展 多摩そごうデパート	テンペラ，油彩による混合技法，10号。 他10号前後の作品３点。 支持体は木製パネルに白亜地。
18. 約束	単	平成4年5月	アルケーの会 友美堂（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号変形。他８号～10号の作品３点。 支持体は木製パネルに白亜地。
19. 風	単	平成4年5月	響鳴展 ギャラリーソノリテ （大阪市）	テンペラ，油彩による混合技法，30号P 他10号，４号の作品３点。 支持体は木製パネルに白亜地。
20. 赤い実	単	平成4年10月	ラズールの会 友美堂（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号 他８号～10号の作品２点 支持体は木製パネルに白亜地。
21. Lamina（光）	単	平成4年11月	スカラベ展 あかね画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，130号F。 他F130号を中心に80号，50号，10号前後の作品，計８点。 ２人展。 支持体は木製パネルに白亜地。
22. 髪	単	平成5年4月	犀の会 彩林堂（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号変型。他10号前後の作品２点。 支持体は木製パネルに白亜地。
23. 微風	単	平成5年10月	個展 友美堂（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号。 他10号５点，８号５点，４号３点。 支持体は木製パネルに白亜地。
24. 月下	単	平成6年7月	個展 東急百貨店本店 （東京）	テンペラ，油彩による混合技法，８号変型。50号P，10号10点，８号２点，６号５点，４号５点。 支持体は木製パネルに白亜地。
25. 空からの手紙	単	平成6年12月	個展 ギャラリーオブジェ （神戸市）	テンペラ，油彩による混合技法，10号P。 他30号２点，15号５点，10号５点，６号４点。 支持体は木製パネルに白亜地。
26. 言葉	単	平成7年8月	個展 東急百貨店本店 （東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号P。他80号，50号１点，30号２点，10号５点， ８号２点，６号５点，４号５点。 支持体は木製パネルに白亜地。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 27．海からの手紙	単	平成7年9月	日本海美術展 富山県立近代美術館	テンペラ，油彩による混合技法，120号変型。受賞候補。 支持体は木製パネルに白亜地。
28．月	単	平成7年11月	個展 あかね画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号F。他，120号変型，30号３点，10号２点，ドローイング数点（FRP使用，半立体含む）。 支持体は木製パネルに白亜地と和紙。
29．しずく	単	平成7年12月	個展 ギャラリーオブジェ （神戸市）	テンペラ，油彩による混合技法，12号F，130号，50号２点，15号２点，10号４点， 素描３点（鉛筆）。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
30．グノシェンヌ	単	平成8年5月	個展 ギャラリーオブジェ （神戸市）	油彩，20号変型。他20号１点，30号１点，15号３点，ドローイング数点（鉛筆，アクリル）。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
31．SNOW GATE	単	平成9年5月	個展 さいとうギャラリー （札幌市）	テンペラ，油彩による混合技法，50号F。 他３枚１組，130号変型，120号１点，50号１点，小品，デッサン数点，計15点。 ドローイング・デッサン等とテンペラ・油彩のタブロー新作１点も展示。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
32．海からの手紙 （しずく）	単	平成9年10月	個展 アートスペースカワモト （富山市）	テンペラ，油彩による混合技法，15号F。 他120号，60号２点，50号２点，30号２点，10号４点，４号2点，ドローイング・デッサン数点。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
33．湿原	単	平成9年11月	個展 あかね画廊（東京）	油彩，30号変型。他50号３点，30号２点，15号３点，10号３点， ドローイング・デッサン数点。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
34．海からの手紙 （声）	単	平成10年1月	絵の中のＭＵＳＥ 所沢市民文化センター	テンペラ，油彩による混合技法，100号変型。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。
35．霧の中で	単	平成10年11月	個展 あかね画廊（東京）	油彩，15号F。他50号３点，10号４点， ドローイング・デッサン数点。 支持体は木製パネルに白亜地。 素描はアルシュ紙使用。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 36. ぬくもり	単	平成11年3月	EXHIBITION　AKE あかね画廊（東京）	テンペラ，油彩による混合技法，10号P。 他10号１点，素描１点。 支持体は木製パネルに白亜地。
37. しずく	単	平成11年3月	選抜有望作家展 天満屋（岡山市）	テンペラ，油彩による混合技法，10号F。 他素描１点，水彩１点。 支持体は木製パネルに白亜地。 水彩はアルシュ紙使用。
38. 分水嶺	単	平成11年4月	写実の世紀 富田賞候補作品展 日本橋高島屋（東京）	油彩，50号F。 支持体は木製パネルに白亜地。
39. lamina（旅の朝）	単	平成18年4月	北の創造者たち展 10th Anniversary [Lovely] 札幌芸術の森美術館 （札幌市）	76.5×73.5センチのパネル水張り画用紙に鉛筆による素描。 他素描5点、テンペラと油彩による混合技法作品5点、水彩とアクリル併用作品1点。 札幌芸術の森美術館企画の北海道の現代美術を紹介するシリーズ展。
40. lamina（赤）	単	平成19年12月	個展 あかね画廊（東京）	テンペラと油彩による混合技法、変形30号。 他素描6点、水彩とアクリル併用作品1点。支持体は木製パネルに白亜地。水彩はアルシュ紙使用。
41. ひかり	単	平成20年12月	細密画の世界 篠田教夫/松村繁/瀬戸照 細密画三人展 神田日勝記念美術館 （鹿追町）	15×15センチのボードに鉛筆と水彩による着彩。 他素描5点、テンペラと油彩による混合技法3点、
42. lamina（shape）	単	平成21年2月	ざ・てわざ-未踏への具象- 日本橋三越（東京）	カットした変形のシナ材に白亜地を施し、テンペラと油彩による混合技法。変形30号。
43. lamina（shaped zoo）	単	平成21年7月	日中美術交流展2009 セッションハウス・ガーデン（東京）	31×23センチ変形サイズのボードに鉛筆による素描。 他テンペラと油彩による混合技法1点。
44. lamina(shaped box	単	平成21年9月	ギャラリーエッセ （札幌）	160×65センチの木製ボックスの中に変形パネル・紙製ボードを組合せて水彩・アクリル・油彩・テンペラ等による混合技法１点。
45. lamina(cloud)	単	平成21年11月	ギャラリーnike(東京)	30×20センチの変形木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法１点。他に油彩とテンペラによる混合技法作品３点。
46. Lamina(囚)	単	平成24年9月	Gallery Suchi(東京)	92×45センチの変形木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法１点。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 47. Lamina （prisoner）	単	平成25年2月	Mandarin Oriental（香港）	92.3×45.9センチの変形木製パネルにアクリルガッシュと油彩とテンペラを用いた混合技法１点。
48. skin	単	平成25年5月	Bunkamura Box Gallery（東京）	10×10センチの変形木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法１点。
49. 海向	単	平成25年10月	Gallery Suchi（東京）	M10号の木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法１点。
50. それぞれの瞳に	単	平成25年10月	いまぁじゅ（札幌）	水彩紙水張りパネルに鉛筆・シャープペンシルによる素描作品6点。木製変形パネルにアクリル・水彩・油彩とテンペラを用いた混合技法４点。
51. LAYER	単	平成26年6月	あかね画廊（東京）	61センチ×120センチ×12センチの木製箱型にシナベニヤ・イラストボード・白亜地パネル等を組み合わせたBOXアート。描画材はアクリル・油彩・テンペラ・鉛筆・パステル等による混合技法。 それぞれのスカラベ展～藤林叡三へのオマージュ２～part1
52. Lamina	単	平成26年12月	あかね画廊（東京）	14センチ×15センチのイラストボードに鉛筆・シャープペンシルを用いた細密デッサン。 EXHIBITION by ZERO! 展
53. Laminaまなざし	単	平成27年7月	アジア国際美術交流協会主催「国際美術大展」 （大韓民国忠州文化会館）	15センチ×20センチのグレー色イラストボードに鉛筆・シャープペンシル・アクリルホワイトを用いた細密デッサン。 30センチ×40センチの水彩紙水張りパネルに鉛筆・シャープペンシル・透明水彩絵の具・アクリル絵の具・顔料インクによる混合技法。
54. Lamina	単	平成27年9月	Gallery Suchi（東京）	20センチ×20センチのイラストボードに鉛筆・シャープペンシルを用いて細密デッサン。
55. Lamina	単	平成27年9月	あかね画廊（東京）	50センチ×70センチの水彩紙水張りパネルに鉛筆・シャープペンシル・透明水彩絵の具・アクリル絵の具・顔料インクによる混合技法。
56. Lamina	単	平成28年9月	Gallery Suchi（東京）	72センチ×60センチのシナベニヤ木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法１点。
57. Lamina	単	平成28年9月	Gallery Suchi（東京）	39センチ×50センチのイラストボードに鉛筆・シャープペンシル・透明水彩絵の具・アクリル絵の具・顔料インク・水性色鉛筆を用いた混合技法。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 58. Agate	単	平成30年3月	あかね画廊（東京）	88センチ×110センチのシナベニヤ木製パネルに油彩とテンペラによる混合技法作品。 他に変形パネルに油彩とテンペラによる混合技法作品８点。 イラストボードに鉛筆作品１点。 イラストボードに鉛筆・アクリル絵の具・水性色鉛筆による混合技法作品１点。 松村繁・山本真紀二人展
59. undone	単	平成30年10月	Gallery Suchi(東京)	約50cm×40cmの不定形のシナベニヤ木製パネルに白亜地の上に油彩とテンペラによる混合表現で作画。 agate（瑪瑙）の研磨標本から空間表情の発想をイメージし制作。
60. Agate	単	2020年10月	Gallery Suchi(東京)	約55cm×45cmの不定形のシナベニヤ木製パネルに白亜地 油彩とテンペラによる混合表現で作画。 agate（瑪瑙）の研磨標本から空間表情のイメージを抽出し人物表現と合わせて制作。
61. コンフィデンスマンjp英雄編(2022年1月公開)劇中使用絵画	単	2021年3月	フジテレビ	コンフィデンスマンjp３劇中絵画制作。F25号サイズのパネルにキャンバスを貼り、アクリル絵具、油彩絵具にて制作。 田中亮監督が設定したイメージのGeorgWaldmüllerやWilliam-Adolphe Bouguereauなど1800年代のヨーロッパ絵画の雰囲気で、人物と静物を配した室内風景を描く。
62.Lumikuningatar	単	2021年10月	Gallery Suchi(東京)	約41cm×32cmのシナベニヤ木製パネルに白亜地 油彩とテンペラによる混合表現で作画。 アンデルセンの雪の女王の小説からイメージした幻想的な人物表現で制作。
63.日本テレビ24時間テレビ45スペシャルドラマ「無言館」劇中使用絵画	単	2022年8月	日本テレビ	日本テレビ24時間テレビ45スペシャルドラマ「無言館」劇中使用絵画制作。長野県にある戦没画学生慰霊美術館 無言館の設立までをドラマ化。そこに展示されている画学生日高安典が描いた人物画の模写1点（時間経過による画面劣化の亀裂、剥落の表情も再現）日高が戦地で描いたクロッキー、デッサン数十点、ハイビスカスのデッサン3点を制作。クロッキーとデッサンは当時の画風をイメージして創作したもの。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （出品） 64.音	単	2022年10月	Gallery Suchi(東京)	約0号サイズ（180mm×140mm）のシナベニヤ木製パネルに白亜地 油彩とテンペラによる混合表現で作画。 「音」をテーマにした幻想的な人物表現にて制作。
（その他） （雑誌掲載等） １．描かれた女性美	共著	平成9年12月	グラフィック社 pp.36～37	女性像を描く複数作家による作品集（日本画・油彩画）。 エスキース・習作・タブローと制作過程掲載。 表紙作品掲載。
２．特集対談「めざせ！マッドコレクター」	共著	平成4年3月	月刊美術 1992年3月号 サン・アート	40pに作品２点掲載。pp.58～63, 特集対談「めざせ！マッドコレクター」というタイトルで，パルコの宣伝部デザイナー，スタジオ・ボイス編集部等，ジャンルの異なる方々と対談。美術作品を収集する人々の意識の変遷やオタク的なコレクション界と美術品との関連等について語りあう。
３．『写実』とは何か	共著	平成10年1月	アートトップ 162号 （芸術新聞社） pp.108～109	作品３点掲載，「『写実』とは何か」。 あかね画廊での個展出品作品から３点掲載してもらい，自分にとっての「写実」絵画とは何か，またこれからの創作活動の方向性についてコメントする。
４．特集「何が写実か？なぜリアルか？」	共著	平成10年3月	月刊ギャラリー 1998年３月号 (株)ギャラリーステーション p.69	作品１点掲載。 特集「何が写実か？なぜリアルか？」 写実絵画を描く日本の作家と外国人作家を比較しつつ，日本での写実絵画の占める位置を考える特集。
５．さっぽろ市民文芸第23号	共著	平成18年10月	さっぽろ市民文芸第23号 札幌市民芸術祭実行委員会 （財）札幌市芸術文化財団 表紙・中扉 p.16 p.27 p.29 p.35 p.39 p.41 p.43 p.62 p.75 p.93 p.103 p.123 p.140 p.151 p.163 p.246 p.39 p.41 p.43 p.62 p.75 p.93 p.103 p.123 p.140 p.151 p.163 p.246	作品18点掲載。 札幌市民の文芸創作活動の振興を目的に文芸作品を募集し、優秀作品を掲載した総合文芸誌。 挿絵

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （雑誌掲載等） ６．神と仏の道を歩く	共著	平成20年9月	集英社 集英社新書ヴィジュアル版 p. 223 p. 291	作品２点掲載。 車折神社と伏見稲荷大社を描く。 鉛筆による細密描写。